

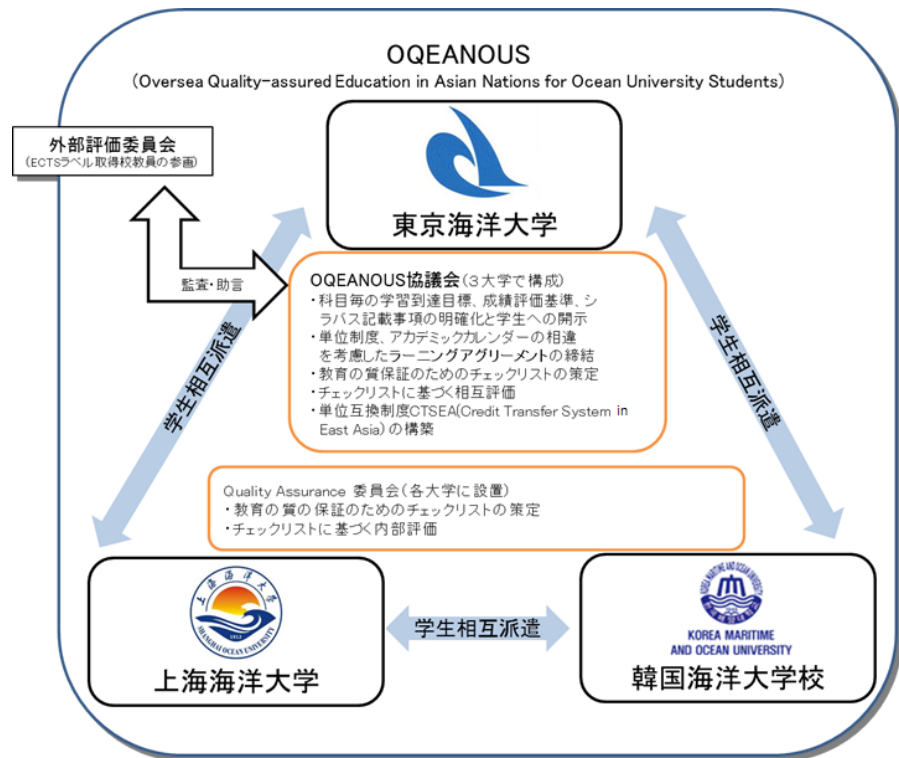
大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 東京海洋大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-② CAMPUS Asia))

「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム(オケアヌス(OCEANOUS)プログラム)

【事業の概要】

国際的に認識されている単位互換制度(ポローニャ・プロセス)と同等の質保証を伴った、単位互換可能な学生交流を大学院レベルで実現することにより、海洋分野における高度専門職業人を養成するとともに、安定的な日中韓大学間交流を促進する。



ECTS: ヨーロッパ諸国の単位互換制度「European Credit Transfer System」

Quality assurance 委員会: 各大学での教育の質を保証するために設置される。

【交流プログラムの概要】

本プログラムは、上海海洋大学及び韓国海洋大学と連携し、博士前期課程学生等を対象としたプログラムの立案を目指すものである。具体的な取り組みは以下のとおりとする。

- ・STP(リサーチインターンシッププログラム): 博士前期課程へ進学を前提とした学部4年次学生を対象として、連携大学に1ヶ月程度派遣し、大学院開講科目の先行履修による単位取得、研究活動及び短期インターンシップを行う。
- ・IJP(海洋分野における国際協働教育プログラム): 派遣先大学に1セメスター以上滞在し、開講される指定科目の中から6単位以上の単位を取得するとともに、長期インターンシップを実施する。
- ・DDP(海洋分野における共同学位プログラム): 出身大学と連携大学のいずれかに、それぞれ1年間以上滞在し、双方で修士論文研究を行い、出身大学と派遣先大学の双方の学位授与基準を満たすことによって、両大学から修士の学位を取得する。

【本事業で養成する人材像】

海洋の持続可能な開発と利用において、広い専門知識を備え、環境戦略的な観点から長期的視野に立ち、独立した判断ができる職業人が必要とされている。

そこで、本プログラムは、日中韓プログラムで行った専攻横断的なカリキュラムのほか、新たに単位互換制度を構築し、質保証された科目履修及びインターンシップを実施する。これにより、専門分野における独創的な思考能力や研究の基礎力を充実させ、高度な専門性を基礎に、多様なアプローチを考案しながら実践の場で問題解決に結びつける能力を持つ国際的な高度専門職業人を養成する。

【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C2 K1	C5 K5	C5 K5	C5 K5	C5 K5
中国(C)での受入	J2 K1	J5 K5	J5 K5	J5 K5	J5 K5
韓国(K)での受入	J1 C2	J5 C5	J5 C5	J5 C5	J5 C5

※本予定人数は、IJP及びDDPの数値である。

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA- ② CAMPUS Asia))

「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム(OQEANOUSプログラム)

■ 交流プログラムの実施状況



〈研究室訪問-イカ耳石の取出し実験 to 上海海洋大学〉



〈中国語教室体験 to 上海海洋大学〉



〈東京海洋大学水産資料館見学 from 韓国海洋大学校〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成29年3月21日(火)～3月23日(木)にかけて、DDP及びIJPの参加を目的として、上海海洋大学に8名の学生を派遣した。なお、派遣先では、キャンパス見学、学生交流、研究室訪問などを行うとともに、地域の文化等を体験し、異文化コミュニケーション能力の向上を図った。

○ 外国人留学生の受入

平成29年2月8日(水)～2月10日(金)にかけて、DDP及びIJPの参加を目的として、韓国海洋大学校の大学院生9名が本学を訪問した。希望する研究分野等に分かれ、日本語模擬授業、造波水槽・回流水槽の見学や研究室見学を行い、本学及び本プログラムの情報提供を行った。

	H28
日本(J)での受入	C0 K9
中国(C)での受入	J8 K5
韓国(K)での受入	J0 C0

〈 H28 各大学における学生交流実績 〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

平成28年度に、日中韓3大学の教員と教務担当事務職員をメンバーとして設置した「OQEANOUS(オケアヌス)協議会」を2回開催した(準備会を含めると3回)。本協議会は、ヨーロッパの「エラスムス計画」の手法を参考にしながら、各国の大学院教育の独自性を保持した統一基準の単位互換システム、成績評価基準、具体的なプログラム内容(STP, IJP, DDP)等を協議した。

また、ECTSラベル取得校であるトルコのエーゲ大学から、ヨーロッパ諸国のECTSに精通した教職員を招聘し、ECTSの概要やエーゲ大学における取組状況等の説明を受けた後、意見交換会を行った。

さらに、ECTSの取り組みを把握するため、国際担当理事、教員及び教務担当事務職員がノード大学(ノルウェー)を訪問し、ECTSの概要、ノード大学がECTSの認証を取得した理由及び効果、取り組み状況等の説明を受け、意見交換を行った。



〈 エーゲ大学等との意見交換会 〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

OQEANOUS(オケアヌス)協議会において、本事業における外国人学生の受入及び日本人学生の派遣に向けた、各大学による財政的サポート及び宿舍の提供等の協議を行った。その結果を受けて、本事業による留学生の増加を見越して、民間から寮を借り上げ、受入れに向けた施設の拡充を行った。

さらに、平成29年4月に本事業のサポート体制を強化するために大幅な事務改組を行い、国際・教学支援課を新設し、専門の担当者を配置するほか、国際交流推進室を設置し、国際関連業務、留学生関連業務等を一元的に管理する体制強化を実施する。

また、平成29年3月に、本事業での派遣及び受入れの双方向実施を目指して、本事業への参加を希望する学生の派遣及び受入れを行い、相互視察をもとに派遣予定先の研究状況や生活環境などに関する情報の収集及び提供を行った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本事業のパンフレットを作成し、本学在学学生向け(日本人学生向け)に事業内容等の周知を行った。併せて、専用HPを開設し、事業の詳細を開示している。なお、HPにおいてはECTSと同等またはそれ以上の情報発信を目指して、コースカタログや事業へ参加するための申請書などを掲載していく予定である(<https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeanous/>)。

また、新聞社等のマスコミに対して積極的に取組情報を発信することで、情報の公開、成果の普及に努めた。

■ グッドプラクティス等

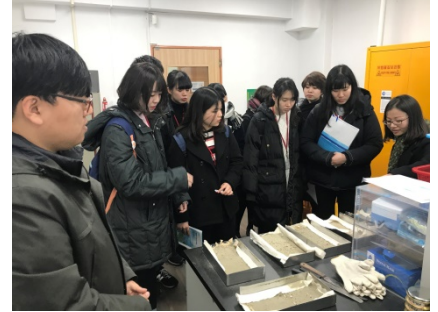
本事業では、平成29年9月の受入と派遣の開始に向けてECTSに引けを取らない三大学間での単位互換制度であるCTSEA(Credit Transfer system in East Asia)Guidelineを作成することができた。また、HPの情報提供を目指して個々の学生に対して締結するLearning Agreementなどの整備に努めた。将来的には、本プログラムの成果を踏まえ、ほかの日中韓大学にも展開するとともに、ECTSラベル取得校、ACTSラベル取得校との学生交流への発展を目指す。

2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-②) CAMPUS Asia)

「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム(オケアヌス(OQEANOUS)プログラム)

■ 交流プログラムの実施状況



IJP派遣前打ち合わせの様子 (於)韓国海洋大学校 サマースクール企業見学(於)光明乳業会社、中国 短期派遣・堆積学研究室見学(於)韓国海洋大学校

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

・平成29年7月15日～26日に、上海海洋大学にてOQEANOUSサマースクール2017(テーマ:Use of the Oceans and Marine Resources for Sustainable Development)が行われた。本学から7名の大学院生と2名の学部4年生が派遣され、韓国海洋大学校、上海海洋大学及び本学から派遣された教員の様々な分野の授業を他大学の学生とともに受講し、プレゼンテーションや活かな議論を行った。

・OQEANOUS短期派遣として、平成29年8月24日、25日に本学から1名の大学院生と8名の学部4年生が、また平成30年3月6日～9日に本学から2名の大学院生と7名の学部生が韓国海洋大学校に派遣された。本短期派遣プログラム参加者からDDPやIJPの参加につなげるために、現地韓国海洋大学校でキャンパスと練習船Handaba号の見学、学生交流とともに、研究室見学の後、各自の分野に関連する研究室での研究体験等を行った。

・平成29年9月～平成30年2月にかけて、IJP一期生として韓国海洋大学校へ1名の学部生を派遣した。

・平成30年3月12日～15日に、上海海洋大学にてOQEANOUS短期派遣2017が行われ、本学から2名の大学院生と9名の学部生が派遣された。本短期派遣プログラム参加者からDDPやIJPの参加につなげるために、上海海洋大学校の学内や研究室見学、研究室体験等を実施した。

○ 外国人留学生の受入

・平成29年10月～平成30年3月にかけて、IJP一期生として韓国海洋大学校より2名の大学院生を受け入れた。

・平成29年10月～平成30年9月にかけて、DDP一期生として韓国海洋大学校より1名の大学院生を、上海海洋大学より2名の大学院生を受け入れた。

	H29
日本(J)での受入	C 2 K 3
中国(C)での受入	J 20 K 9
韓国(K)での受入	J 19 C 6

(一部、正規プログラム外の短期派遣者を含む。)

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

昨年度に引き続き、本事業円滑な実施のため、「OQEANOUS(オケアヌス)協議会」を2回開催し問題点や現状について情報を共有した。また、ダブルディグリー及び学生の単位互換に関する協定を締結し、日中韓の大学院教育の独自性を保持した統一基準の単位互換システムであるガイドラインCTSEA(Credit Transfer System in East Asia)を策定した。さらに、今後のOQEANOUSにおける学生派遣をよりスムーズに行うことを目的として、各大学の教員間の教育・研究上の関心事項等の相互理解を図るためのRound Table Symposiumが、韓国海洋大学校と本学で計2回開催された。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

国際交流推進室で練られた戦略を着実に実行するために、新たにグローバル教育研究推進機構を設置した。これにより、留学生関連業務、国際関連業務の情報共有の効率化が図られた。本事業は、本機構のグローバルプロジェクト推進部門が主に担当することとした。

派遣・受入れ学生の奨学金及び宿舍の提供等については、本事業の協定書に盛り込まれており、この協定書に従って着実に実行されている。具体的な内容については、協議会にて3大間で共有を図ったうえで、学生へ募集要項及びHP等にて周知している。



ダブルディグリー協定書及び単位互換海洋大学に関する協定書の締結(於)東京海洋大学

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本事業のパンフレットを新入生オリエンテーションで配布するとともに、3回に渡り日本人学生向けに説明会を行った。専用HPを完成させ事業の詳細を開示するとともに、最新のイベントやニュースをアップしている。学生募集については、HPを活用するだけでなく、学生へのメール配信を通じて情報提供を行うとともに、希望者には個別相談を実施している。また、本事業で目指しているECTSの中核となるコースカタログをHP上に掲載し、受入れ学生に対して授業科目の詳細について情報提供を行っており、さらに、CTSEAやラーニングアグリーメント等の様式もHPから参加学生が容易に取得できるように体制を整えた。(https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeanous/)。

■ グッドプラクティス等

教育の質の保証に向けて、本プログラムの評価を客観的に行うための調査様式CTSEA Survey formを作成し、調査の実施方法について3大間で共有した。また、第1期生に対して本調査を実施し、結果をとりまとめて分析を行った。今後、この結果を3大間で共有し、問題点の把握と改善に努めながら質の保証につなげる予定である。将来的には調査を行う科目数を増やしたうえで、より確実な質の保証に近づけ、ECTSラベル取得校やACTSラベル取得校との学生交流への発展を目指す。

3. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-②) CAMPUS Asia)

「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム(オケアヌス(OQEANOUS)プログラム)

■ 交流プログラムの実施状況



Summer School (於)韓国海洋大学校



短期派遣・練習船Hanbada号の見学
(於)韓国海洋大学校



短期派遣・工学院訓練センターでの実験指導
(於)上海海洋大学

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- 平成30年4月～平成31年3月にかけて、DDP一期生として韓国海洋大学校へ本学から1名の大学院生を派遣した。
- 平成30年7月18日～31日に、韓国海洋大学校にてOQEANOUSサマースクール2018(テーマ: Five ways to save and develop the ocean)が行われた。本学から2名の大学院生と8名の学部生が派遣され、韓国海洋大学校、上海海洋大学及び本学から派遣された教員の様々な分野の授業を他大学の学生とともに受講し、プレゼンテーションや活発な議論を行った。
- OQEANOUS短期派遣として、平成31年3月6日～9日に本学から1名の大学院生と2名の学部4年生を韓国海洋大学校に派遣した。本短期派遣プログラム参加者からDDPやIJPの参加につなげるために、現地韓国海洋大学校でキャンパスと練習船Hanbada号の見学、マリンシミュレーションセンターの見学等を行った。
- 平成30年9月から、IJP学生として上海海洋大学及び韓国海洋大学校に本学から各1名の大学院生を派遣した。また、平成31年3月13日～15日に同じくOQEANOUS短期派遣として、上海海洋大学に1名の大学院生と13名の学部生を派遣した。本短期派遣プログラム参加者からDDPやIJPの参加につなげるために、上海海洋大学校のキャンパスツアーや中国語教室、中国文化体験を行った。また、所属分野ごとに4グループに分かれ、研究室見学及び研究室体験等を実施した。

○ 外国人留学生の受入

- IJP学生として平成30年4月～9月にかけて韓国海洋大学校より3名の学部生を、平成30年10月～翌年3月にかけて上海海洋大学より1名の大学院生および韓国海洋大学校より1名の学部生を受け入れた。
- 平成30年4月～翌年3月にかけて、DDP学生として上海海洋大学より2名の大学院生を受け入れた。
- 平成30年11月29日から30日にかけて、上海海洋大学から9名の大学院生が本学に来学し、OQEANOUS短期受入れが行われた。本短期受入れは、参加者からDDPやIJPの参加につなげるために実施され、学生は各所属分野に分かれ、研究室訪問やキャンパスツアー及び日本語講座に参加した。

	H30
日本(J)での受入	C 12 K 4
中国(C)での受入	J 15 K 2
韓国(K)での受入	J 15 C 34

(一部、正規プログラム外の短期派遣者を含む。)

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 研究分野のマッチングを行い学生派遣をよりスムーズに行うことを目的として、第3回OQEANOUS Roundtable Symposiumが平成30年9月21日に上海海洋大学で開催され、本学から11名、韓国海洋大学校から3名、上海海洋大学から23名の教員が参加した。
- 昨年度に引き続き、本事業円滑な実施のため、「OQEANOUS(オケアヌス)協議会」を3回開催し問題点や現状について情報を共有した。各プログラムの学生募集、サマースクール、コースカタログや単位付与、教育の質の保証を目的としたCTSEA Survey、本年12月に上海海洋大学で行われたモニタリング、本事業の外部評価委員の招へいやダブルディグリープログラム修了予定の学生の学位授与に向けて、各大学における論文審査スケジュールや内容について意見交換を行うなど、今後の本事業の具体的な取り組みと課題について活発な議論がなされた。また、第8回OQEANOUS協議会の開催時に、ノード大学から専門家2名を招聘し本事業に対する外部評価を実施した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本事業は、国際交流推進室で練られた戦略を着実に実行するために新たに設置されたグローバル教育研究推進機構のグローバルプロジェクト推進部門が主に担当している。日本語、中国語及び韓国語のトリリンガルのコーディネーターを2名OQEANOUSオフィスに配置し、派遣前相談及び派遣・受入手続きを行うと共に、派遣・受入後も各大学のコーディネーターと学生がSNSで繋がり、悩み相談や緊急事態に対応できる体制を整えている。また、日本人学生派遣の際には、海外渡航安全ガイドブックのチェックシートの提出を義務付け、海外渡航に関する危機管理セミナーにも参加させている。派遣・受入れ学生の奨学金及び宿舎の提供等については、本事業の協定書に盛り込まれており、この協定書に従って着実に実行されている。具体的な内容については、協議会にて3大学間で共有を図ったうえで、学生へ募集要項及びHP等にて周知している。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本事業のパンフレットを新入生オリエンテーションで配布するとともに、3回に渡り日本人学生向けに説明会を行った。専用HPに各大学の学事暦、シラバス、指導教員リストを掲載すると共に、受入れ学生には来日後に生活上必要な情報を掲載している。また、最新のイベントやニュースをアップし、プログラムに参加した学生の体験談の掲載を充実させている。学生募集については、HPを活用するだけでなく、学生へのメール配信を通じて情報提供を行うと共に、希望者には個別相談を実施している。また、本事業で目指しているECTSの中核となるコースカタログをHP上に掲載し、受入れ学生に対して授業科目の詳細について情報提供を行っており、さらに、CTSEAやラーニングアグリーメント等の様式もHPから参加学生が容易に取得できるように体制を整え、DDP学生向けには、各大学の科目の修了要件についても公表している。(<https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeanous/>)

■ グッドプラクティス等

参加機関が本プログラムの質の保証の条件を満たしているかについて確認することを目的としたチェックリストの原案について、検討を行った。本チェックリストは、本プログラムをASEAN諸国の協定校等に展開する際に使用する予定である。また、ダブルディグリーの論文審査スケジュールや修了要件について取りまとめを行い、平成31年度実施予定の学位審査の共通ルールの構築を行った。

4. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-② CAMPUS Asia))

「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム(オケアヌス(OQEANOUS*)プログラム)

*Overseas Quality-assured Education in Asian Nations for Ocean University Students

■ 交流プログラムの実施状況



Summer School (於)JAMSTEC



短期派遣・練習船Hanbada号の見学
(於)韓国海洋大学校



短期派遣・ドラゴンボード体験指導
(於)上海海洋大学

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

・OQEANOUS短期派遣として、令和元年9月15日～9月18日にかけて韓国海洋大学校、9月18日～9月22日にかけて上海海洋大学へ4名の大学院生と4名の学部生が本学より派遣され、本短期派遣プログラム参加者からDDP(Double Degree Program(派遣期間:2セメスター))やIJP(International Joint Program(派遣期間:1セメスター))の参加につなげるために、両大学の校内や施設見学、中国語授業への参加や研究室訪問等を行った。

- ・平成31年4月～令和2年1月にかけて、DDP二期生として上海海洋大学へ本学から1名の大学院生を派遣した。
- ・平成31年3月～令和2年7月の間で、IJP学生として上海海洋大学へ3名の大学院生および1名の学部生を派遣した。
- ・平成31年3月～令和2年6月の間で、IJP学生として韓国海洋大学校に1名の大学院生を派遣した。

○ 外国人留学生の受入

・令和元7月9日から21日に、本学にてOQEANOUSサマースクール2019(テーマ: The practical leadership to handle various comprehensive challenges in the environment, resources and energy of the ocean)が行われた。本学から2名の学部生と3名の大学院生が参加し、韓国海洋大学校、上海海洋大学からは、10名ずつ参加があった。3大学の教員による様々な分野の授業を受講し、プレゼンテーションや活発な議論を行った。そのほかにも、総合建設コンサルタントいであ株式会社への会社訪問や海洋研究開発機構JAMSTECの見学などが行われた。

・IJP学生として平成31年4月～9月にかけて韓国海洋大学校より2名の学部生および1名の大学院生を、令和元年10月～翌年3月にかけて1名の学部生を受け入れた。

・令和元年10月～令和2年9月にかけて、DDP学生として上海海洋大学より2名の大学院生を受け入れた。

・令和元年8月19日に第2回KMOU-TUMSAT Joint Workshop(博士前期・後期課程学生による学術講演会)が本学にて行われ、本学の大学院生2名とKMOUの7名の大学院生がそれぞれの研究発表を行い、ベストプレゼンターが選ばれた。

・令和元年11月7日～8日にかけて、上海海洋大学の14名の大学院生の短期受入れを行い、大学のキャンパスツアーや日本語授業及び研究室訪問を行った。

(一部、正規プログラム外の短期派遣者を含む。)

	R1
日本(J)での受入	C 26 K 21
中国(C)での受入	J 13 K 9
韓国(K)での受入	J 9 C 16

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・昨年度に引き続き、本事業の円滑な実施のため、令和元年6月25日に第9回OQEANOUS協議会が韓国海洋大学校で、また、令和元年11月19日に第10回OQEANOUS協議会が本学で開催され、外部評価の結果や質の保証を図るためのOQEANOUS CTSEA(Credit Transfer System in East Asia) Surveyの結果について情報交換を行うとともに、プログラムの情報がHP上で学生にきちんと提供されているか等を内部評価の観点から自己点検、確認するためのチェックリストを作成した。本チェックリストは、本プログラムをASEAN諸国の協定校等に展開する際にも使用する予定である。

・令和元年11月19日に本プログラムにてダブルディグリーを取得した学生及び現在DDPに参加中の学生によるDDP Student シンポジウムを実施し、4名のDDP学生による本プログラムにおける改善点についてのプレゼンが行われ、3大学間で共有された。

・令和2年2月22日にエーゲ大学にて本事業の本学の取組みに係る外部評価のヒアリングを実施した。コースカタログ、成績評価、ラーニングアグリーメント、学生相互派遣、ダブルディグリー授与のための学位論文審査の現状等について質疑応答および意見交換が行われた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本事業は、国際交流推進室で練られた戦略を着実に実行するために新たに設置されたグローバル教育研究推進機構のグローバルプロジェクト推進部門が主に担当している。日本語、中国語及び韓国語のトリリンガルのコーディネーターを2名OQEANOUSオフィスに配置し、派遣前相談及び派遣・受入手続きを行うと共に、派遣・受入後も各大学のコーディネーターと学生がSNSで繋がり、悩み相談や緊急事態に対応できる体制を整えている。また、日本人学生派遣の際には、海外渡航安全ガイドブックのチェックシートの提出を義務付け、海外渡航に関する危機管理セミナーにも参加させている。派遣・受入れ学生の奨学金及び宿舎の提供等については、本事業の協定書に盛り込まれており、この協定書に従って着実に実行されている。具体的な内容については、協議会にて3大学間で共有を図ったうえで、学生へ募集要項及びHP等にて周知している。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本事業のパンフレットを新入生オリエンテーションで配布するとともに、日本人学生向けに説明会を行った。専用HPに各大学の学事暦、シラバス、指導教員リストを掲載すると共に、受入れ学生には来日後に生活上必要な情報を掲載している。また、最新のイベントやニュースをアップし、プログラムに参加した学生の体験談の掲載を充実させている。学生募集については、HPを活用するだけでなく、学生へのメール配信を通じて情報提供を行うと共に、希望者には個別相談を実施している。また、本事業で目指しているECTSの中核となるコースカタログをHP上に掲載し、受入れ学生に対して授業科目の詳細について情報提供を行い、CTSEAやラーニングアグリーメント等の様式もHPから参加学生が容易に取得できるように体制を整えている。DDP学生向けには、各大学の科目の修了要件についても公表している。令和元年度は、OQEANOUS事業参加者の体験談を冊子にし、令和2年度よりHPに掲載するとともに、説明会、オリエンテーション時や希望者へ配布する。

■ ゲッドプラクティス等

参加機関が本プログラムの質の保証の条件を満たしているかについて確認することを目的としたチェックリストを作成した。本チェックリストは、本プログラムをASEAN諸国の協定校等に展開する際にも使用する予定である。また、本プログラムの目指す人材を育成できているかどうか確認するために、本プログラム修了後の学生調査の様式を検討した。

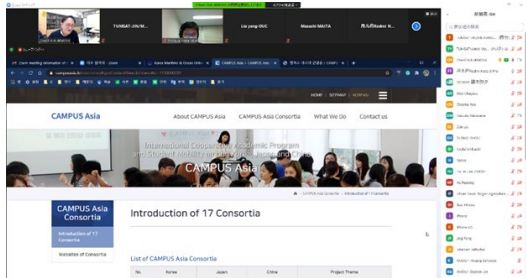
4. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-②) CAMPUS Asia)

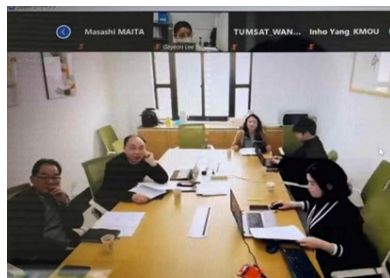
「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム(オケアヌス(OQEANOUS*)プログラム)

*Overseas Quality-assured Education in Asian Nations for Ocean University Students

■ 交流プログラムの実施状況



第1回OQEANOUS合同説明会の様子(オンライン)



第14回OQEANOUS協議会の様子(オンライン)



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による中韓両国の入国制限の影響で、学生の派遣は叶わなかった。しかし、令和3年3月から1名の学部学生がIJP学生として上海海洋大学が提供するオンライン授業を受講しており、同年6月にIJPの修了要件である6単位以上を取得し、プログラムを修了する予定である。
- 令和元年度はDDP学生として上海海洋大学に派遣した博士前期課程学生1名の論文審査を実施し、令和3年3月に本学を修了した。同年6月に本学学生として2人目の共同学位(ダブルディグリー)取得となる予定である。
- IJP及びDDPという中長期プログラム参加学生の掘り起こしのため、令和3年3月に3大学合同で第1回OQEANOUS合同説明会を開催し、プログラム内容に加え、各大学の紹介を行った。本学からは10名の学生が参加した。

○ 外国人留学生の受入

- 令和2年10月より、韓国海洋大学よりIJP学生3名を受け入れた。渡日までの期間は、全員が本学の博士前期課程の授業をオンラインで受講し、うち2名は12月に渡日して対面での授業を受講した。令和3年3月には、3名全員がIJPの修了要件である6単位以上を取得しプログラムを修了した。
- 2名の上海海洋大学DDP学生に対し、令和2年5月に上海海洋大学と合同論文審査を実施し、同年9月に本学の学位を取得してDDPを修了した。
- 令和2年10月より、上海海洋大学よりDDP学生2名を受け入れた。1名は新型コロナウイルス感染症による入国制限の影響もあり、途中で参加を辞退したが、1名はオンラインで本学の必修科目の単位を取得した。
- IJP及びDDPという中長期プログラム参加学生の掘り起こしのため、令和3年3月に3大学合同で第1回OQEANOUS合同説明会を開催し、プログラム内容に加え、各大学の紹介を行った。本学紹介に当たっては、バーチャルキャンパスツアー映像やPRビデオを用いることで、より関心を喚起する工夫を行った。上海海洋大学から25名、韓国海洋大学から1名の学生が参加した。

		R2
日本(J)での受入	C	2
	K	3
中国(C)での受入	J	1
	K	0
韓国(K)での受入	J	0
	C	0

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本事業の円滑な実施と課題の共有・解決のため、昨年度までと同様に、令和2年7月及び8月に第11回OQEANOUS協議会をオンラインで開催し、新型コロナウイルス感染症の影響による外国人の入国制限や水際対策等、及び各大学におけるオンラインを活用した授業の実施状況について情報共有を行った。また、毎年夏に実施しているSTP(2週間程度のショートプログラム)について、質の保証を伴ったオンライン実施の可能性について議論を行った。10月に開催した第12回、11月に開催した第13回OQEANOUS協議会では、プログラム修了者が所属する企業等に対して実施するアンケート調査の調査項目や実施方法を確定し、協議会終了後に各大学において調査を実施した。令和3年3月に開催した第14回OQEANOUS協議会では、各大学からのアンケート調査結果の報告と、令和2年2月に実施したエーゲ大学による外部評価結果を共有し、本プログラムが目指す人材の育成状況や今後のプログラムへの調査結果の反映等について意見交換を実施した。なお、同日には、併せて3大学の教員交流会を開催し、本プログラムの学生派遣・受入れの実績のある教員12名が3大学から参加し、本プログラムの改善点について様々な提言を行った。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本事業は、国際交流推進室で練られた戦略を着実に実行するために設置されたグローバル教育研究推進機構のグローバルプロジェクト推進部門が主に担当している。日本語、中国語及び韓国語のトリリンガルのコーディネーターを2名OQEANOUSオフィスに配置し、派遣前相談及び派遣・受入手続きを行うと共に、派遣・受入後も各大学のコーディネーターと学生がSNSで繋がり、悩み相談や緊急事態に対応できる体制を整えている。令和2年度は、オンラインを活用した遠隔での授業の履修についてコーディネーターが窓口となり、学生が受講を希望する授業について教員にオンライン実施の可能性を確認したり、オンラインで提供可能な授業を提案する等、学生がスムーズに受講できるような環境を整えた。また、特にDDPの論文審査において、3大学でそれぞれ異なる審査方法を相互に情報共有し、論文審査委員である指導教員間の調整を行う他、論文発表にも同席し、必要に応じて通訳を行うなど審査が滞りなく進むようサポートを行った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本事業プロモーションビデオを作成しYoutubeにアップするとともに(<https://www.youtube.com/watch?v=i-HD7pwKo3I>)、本プログラム専用HPにも掲載している。また、令和3年3月に3大学合同で開催した第1回OQEANOUS合同説明会では、本ビデオを活用したプログラム内容や本学の説明を行い、併せて本ビデオやHPの紹介も行った。なお、説明会には、3大学の学生その他、ASEAN諸国の協定校であるチュラロンコン大学(タイ)、カセサート大学(タイ)及びカントー大学(ベトナム)大学などの教職員も参加し、本プログラムの今後のASEAN諸国への展開も見据えた成果普及に繋がる大変有意義な取り組みとなった。

■ グッドプラクティス等

本プログラムが目指す人材を育成・輩出に至ったか、その成果をもってプログラムを評価する試みを実践するため、本プログラムの修了生が所属する企業等に対するアンケート調査を行った。この調査は、3大学で共通の様式を使用して実施し、最終的に韓国海洋大学が3大学分のデータを集計と分析を行い、その結果を令和3年5月のOQEANOUS協議会において共有し今後のプログラム改善に繋げた。